

製品名: P-カドヘリンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab15813**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	86kDa

抗原情報

遺伝子名	CDH3
別名	CDH3; CDHP; Cadherin-3; Placental cadherin; P-cadherin
遺伝子 ID	1001.0
SwissProt ID	P22223
免疫原	抗血清はヒト CDH3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 51-100

背景

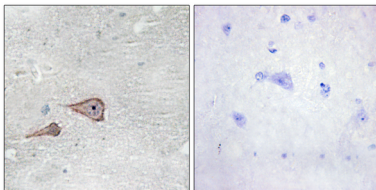
この遺伝子は、カドヘリンスーパーファミリーの古典的カドヘリンをコードしています。選択的スプライシングにより複数の転写バリエーションが生じ、そのうち少なくとも 1 つは、タンパク質分解によって成熟糖タンパク質が生成されるプレプロタンパク質をコード

しています。このカルシウム依存性細胞間接着タンパク質は、5つの細胞外カドヘリンリピート、膜貫通領域、および高度に保存された細胞質末端で構成されています。この遺伝子は、乳がんおよび前立腺がんにおけるヘテロ接合性消失イベントに関与する16番染色体長腕領域の遺伝子クラスターに位置しています。さらに、このタンパク質の異常な発現は子宮頸部腺がんにおいて観察されています。この遺伝子の変異は、若年性黄斑ジストロフィーおよび外胚葉性異形成を伴う貧毛症、欠損指症、および黄斑ジストロフィー症候群 (EEMS) に関連しています。[RefSeq 提供、2015年11月]、疾患: CDH3の欠陥は、欠損指症および黄斑ジストロフィーを伴う外胚葉異形成症 (EEM) [MIM:225280]の原因です。EEM症候群、アルブレクセン・スベンセン症候群、または大堂・平山・寺脇症候群としても知られています。外胚葉異形成症は、2つ以上の外胚葉構造の異常な発達による不均一な疾患群を定義します。EEMは、まばらな眉毛や頭髪、および黄斑ジストロフィーおよび欠損指症に関連する選択的歯無形成症などの外胚葉異形成症の特徴を特徴とする常染色体劣性疾患です。疾患: CDH3の欠陥は、若年性黄斑ジストロフィーを伴う貧毛症 (HJMD) [MIM:601553]の原因です。HJMDは、稀な常染色体劣性遺伝性疾患であり、早期の脱毛を特徴とし、網膜黄斑の重度の変性変化の前兆となる。最終的には10代から20代にかけて失明に至る。機能: カドヘリンはカルシウム依存性細胞接着タンパク質である。細胞同士を接着する際に、カドヘリンは優先的にホモフィリックに相互作用するため、異種の細胞種の選別に寄与している可能性がある。オンライン情報: Retina International's Scientific Newsletter,類似性: 5つのカドヘリンドメインを含む。サブユニット: CDCP1と相互作用する。組織特異性: 一部の正常上皮組織および一部の癌細胞株で発現する。

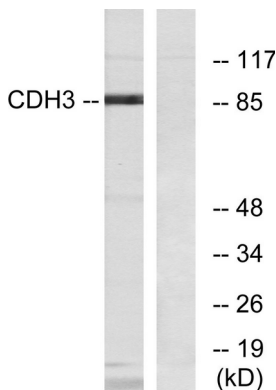
研究分野

細胞接着分子 (CAM)

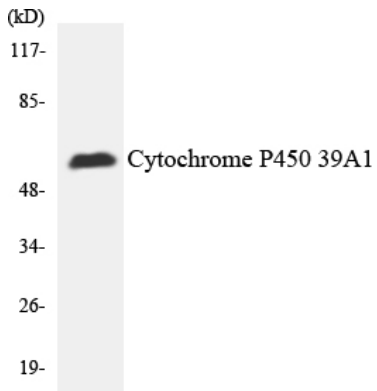
画像データ



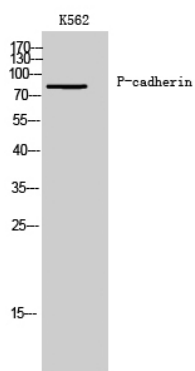
CDH3抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



CDH3抗体を用いたK562細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



シトクロム P450 2C19 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



P-カドヘリンポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット解析